

学級活動

学級や学校の生活づくり

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立向洋新町小学校	校長氏名	藤川 太恵子	生徒指導主事氏名	宝沢 均
取組事例名		『学校に来にくい児童を野外活動に参加させる。』			
取組のねらい		『キーワード 野活にいこう』			
<p>不登校ではないが、起立性調節障害、心因性の胃腸障害のため（それぞれ1人ずつ。医師からの診断あり。）学校に来にくい児童を野外活動に参加させるためのよい機会ととらえて取り組んだ。この取組により、児童は自信をもって行動できるようになる。</p>					
取組の具体的内容		『キーワード 安心できる野外活動』			
<p>家庭訪問し、準備物や活動内容など保護者と連絡を密に取る。</p> <p>調子が悪くて休んでいるときにも、できるだけ家庭訪問し、活動内容を知らせるなどして本人を安心させるようにする。（そのとき、学校に無理やり誘うことはしなかった。）</p> <p>体の調子がよく、学校に来ることができたときも、本人が立てたスケジュールで準備を整える。学校が安心できる場所だと印象づける。</p> <p>野外活動当日の動きを想定して、臨機応変に対応できるようにし、まわりの子どもにも声かけをさせ、活動に参加させた。</p>					
取組の課題・創意工夫		『キーワード 病気を跳ね返す声かけ』			
<p>胃腸炎の児童は、現在、毎日登校することができるようになっている。</p> <p>取組当時は、自分の教室に入ると何か言われるのではないかとこの恐れがあり、それをだんだん慣らしていくためにふれあいひろばを利用する。そこで野外活動の楽しさを伝える。</p> <p>起立性障害をもつ児童は、朝起きるのが困難であるため、時々、調子の良いときに学校に誘った。登校した日は、教室で過ごしたが、とても疲れている様子だった。それでも、友達の声かけにより、体はしんどいがそれを上回るやる気が湧いたようであった。</p> <p>その他、教育委員会生徒指導課に相談し SSW の申請を行った。</p>					
取組の成果（効果）		『キーワード 野活への参加、成功体験』			
<p>【野活での成功体験の後】</p> <p>胃腸炎の児童は安心感を増し、本当に症状が悪いとき以外は、学校に休まず来るようになった。勉強も、少しずつ始めている。また、時々自分のクラスで友達と話しをしたり、給食を一緒に食べることが出来るようになってきたりしてきている。</p> <p>起立性障害の子どもは、SSW とともに連携し、朝が辛いようなら、昼前に迎えに行き給食を一緒に食べて帰れるよう取り組んでいる。週1回は学校に来ることができるようになったのでこの回数を増やすように話をしている。</p> <p>クラスの子どもたちも、友達のための行動により、よい結果がでたので満足した様子であった。</p>					

今後の展開『キーワード 今後へ』

やればできる。という体験は自信につながったようである。

体調が悪くても頑張れば何とかできるという体験が得られた。今後、行事などに参加するときもこのような形でアドバイスしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 魔法の薬 生徒指導の3機能』

問題を抱えた児童に、「話を傾聴する。」「共感的な人間関係が作れるように仕組む。」「自己決定の場を与える。」という場面を増やしていけば、自己有用感を持てるようになる。その結果はやる気となってよい循環を生む。

特別活動に限らず、活動が本当に楽しいと思えれば、困難（今回は病気）を乗り越える原動力となると思われる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立落合東小学校	校長氏名	宅見 政子	生徒指導主事氏名	穂山 和也
-----	------------	------	-------	----------	-------

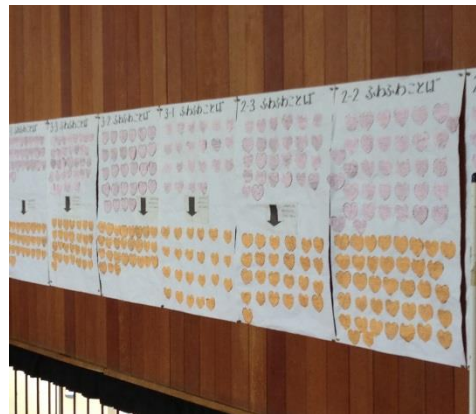
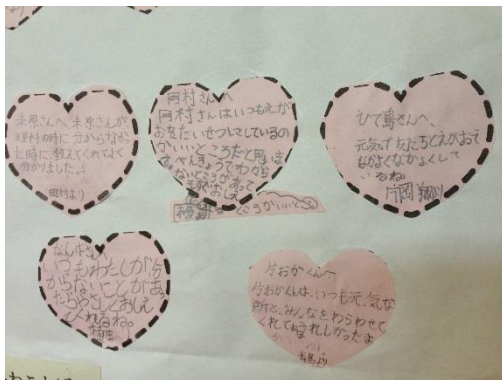
取組事例名 『平和集会』

取組のねらい『キーワード 自分たちにできること』

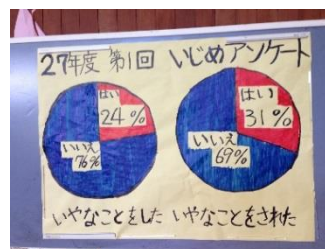
8月6日の原爆投下についての正しい認識をもつとともに、平和な世の中をつくるために自分たちでできることを考える。

取組の具体的内容『キーワード ふわふわキャンペーンといじめアンケート』

- ・ 6月10日代表委員会
- ・ 6月10日～19日「ふわふわキャンペーン」友達や自分のよいところをハートの用紙に書き込み、学級ごとに模造紙に貼り廊下等に掲示する。



- ・ 6月22日～26日「いじめアンケート」無記名。内容は、いやなことを言われたりされたりしたこと、いやなことを言ったりしたこと、落合東小学校をどのような学校にしたいかの3点。学級担任が目を通した後、児童会担当でまとめ、それを平和集会の中で発表する。
- ・ 7月15日の平和集会当日までに、「けんかをやめて仲良くしよう」など、各クラスの平和の誓いを作り当日全校の前で発表する。平和な世の中を作るために自分たちができることを、いじめ撲滅の視点も入れながら作っていく。また、「ふわふわキャンペーン」を通して温かい人間関係をつくる雰囲気を作る。



- ・ 7月15日平和集会当日。「一人ひとりを大切にする気持ちを持つ。みんなで命の大切さや平和について考える。」のねらいで実施する。

取組の課題・創意工夫『キーワード 温かい人間関係を育む』

- ・ 全体的には学校が落ち着いてきてはいるけれど、トラブルがなくなっていない。
- ・ 「いじめアンケート」を児童会で2回、生活部で1～2回行っている。これで児童の実態を十分に把握できるかどうかは課題が残る。
- ・ 「ふわふわキャンペーン」では、友達や自分の良いところを書いた用紙のいくつかをお昼の放送で児童会運営委員会が紹介した。廊下への掲示も含め、学校内に温かい人間関係を育む素地をつくった。
- ・ 「いじめアンケート」や「平和の誓い」作りを通して、学級内で温かい人間関係を育む大切さなどについて話し合う。

取組の成果（効果）『キーワード 落ち着いた学校の雰囲気』

- ・ 児童会のこの取組は数年続いており、本校に定着してきている。毎年創意工夫は加えながらも大筋はこの流れである。児童も先が見え安心して取り組んでいる。
- ・ 学校全体が落ち着いた雰囲気になってきている一因と考えられる。

今後の展開『キーワード 自分たちで決めたキャンペーン』

- ・ 児童会運営委員を中心に代表委員会で、「あいさつキャンペーン」「時間を守ろうキャンペーン」「身だしなみキャンペーン」を決めて実施していった。自主的・実践的な取組を行う中で児童が成長していくことが重要と考えている。

他校へのアドバイス『キーワード 児童へのフィードバック』

- ・ 「ふわふわキャンペーン」では、掲示等でフィードバックすることにより、全校に温かい雰囲気をつくることができた。
- ・ 「あいさつキャンペーン」「時間を守ろうキャンペーン」「身だしなみキャンペーン」ではお昼の放送を通して、取組内容やキャンペーンの結果など、具体的にフィードバックした。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立八幡東小学校	校長氏名	河野 博一	生徒指導主事氏名	岩谷 恵美
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『ふわふわ言葉を使おう』

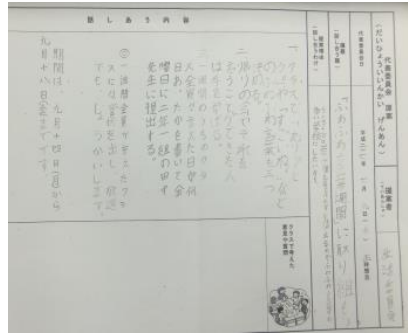
取組のねらい 『キーワードふわふわ言葉』

普段何気なく用いている言葉について考えさせ、相手が受け取って心地よい言葉（ふわふわ言葉）を進んで使い、お互いの学校生活を楽しいものにしていこうとする態度を育てる。

取組の具体的内容 『キーワードふわふわ言葉週間』

まず、各クラスの代表が集まる「代表委員会」で、生活委員会からの提案という形で話し合いの場を設定した。そこで決まったことは、以下の通りである。

- ・ 各クラスでどんな言葉かけが嬉しいか話し合う。
- ・ 毎月 1 週間「ふわふわ言葉週間」を設ける。
- ・ クラスで決めた「ふわふわ言葉」を全員が言えた日を記録する。
- ・ 週間全部○になったクラスは、給食放送で表彰し、賞状も渡す。



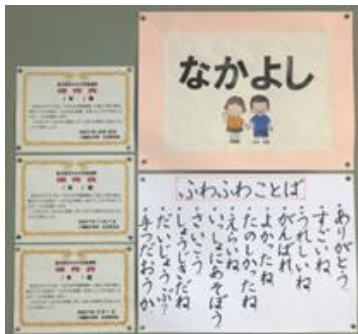
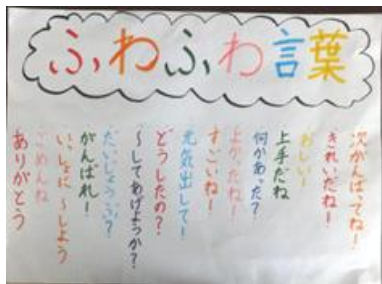
取組の課題・創意工夫 『キーワードふわふわ言葉週間』

児童朝会で、委員会の児童が寸劇を行い、言われると嫌な気持ちになる言葉を減らし、嬉しくなる言葉（ふわふわ言葉）を増やすよう呼びかけた。



また、後期に毎月行った「ふわふわ言葉週間」には、各クラスにチェックカードを配布し、全部○になったクラスは、給食放送で表彰したり、賞状を渡したりして意欲付けを図った。

各クラスともふわふわ言葉を掲示するなどして、評価するとともに翌月の「ふわふわ言葉週間」につなげるように工夫して取り組んでいた。



**ふわふわ言葉週間
年 組**

- クラスで決めたふわふわ言葉を1つ以上使うことができれば、手を挙げます。
- クラス全員が手をあげたら、赤に○をします。
- 一週間のうち、クラス全員が言えた日が何日だったかを書きます。
- 全曜日(先主)に提出してください。
- がんばったクラスには賞状を渡します。

第1回ふわふわ言葉週間

9/14月	9/15火	9/16水	9/17木	9/18金	○の数

第2回ふわふわ言葉週間

10/12月	10/13火	10/14水	10/15木	10/16金	○の数

第3回ふわふわ言葉週間

11/9月	11/10火	11/11水	11/12木	11/13金	○の数

第4回ふわふわ言葉週間

12/7月	12/8火	12/9水	12/10木	12/11金	○の数

取組の成果（効果）『キーワードふわふわ言葉』

- ・ あいさつもふわふわ言葉であるという認識が高まり、あいさつを自分からする児童が増えた。
- ・ 言葉遣いをあまり意識していなかった児童が、友達に言われて自分もふわふわ言葉を使っているということに気がつくことができた。
- ・ 毎月「ふわふわ言葉週間」を設定することで前回は振り返ることができたり、次回はさらにふわふわ言葉を増やせるようにがんばろうという意欲が高まったりした。
- ・ マンネリ化してしまうクラスもあり、学校全体では、取り組み方に差が出てしまった。

今後の展開『キーワードふわふわ言葉をふやそう』

- ・ 取組が進んでいるクラスを参考に、ふわふわ言葉を増やす取組を考える。

他校へのアドバイス『キーワードふわふわ言葉週間』

「ふわふわ言葉月間」より、毎月1週間取り組むことによって、前の月の良くなかったところを直すなど、毎月、ふわふわ言葉について考える時間を取ることが良かった。しかし、同じ取組では、マンネリ化してしまうのが課題である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立上温品小学校	校長氏名	山名 朋子	生徒指導主事氏名	木村 文美
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『花束のことばの推奨』

取組のねらい『キーワード望ましい人間関係』

・クラスで花束のことばを考え、意欲的に使用することで、よりよい人間関係を作るようにする。また、あいさつ運動を通して学校生活が明るくなり、望ましい人間関係が作れるように、児童の意識を高める。

取組の具体的内容『花束のことばを増やそう』

○ 花束のことばについて

・9月から毎日使える花束のことばをクラスで1つ決めて使用する。また、花束のことばが使えているかを帰りの会や「心のブレーキふり返りカード」などでふり返る場を持つ。

○ あいさつ運動について

・9月から毎週木曜日（8：00～15）に、各クラス半分に分かれて、2つの門の前に並び「おはようございます。」と相手の顔を見てあいさつをする。活動後に、反省をしたり「心のブレーキふり返りカード」などでふり返ったりする場を持つ。

取組の課題・創意工夫『活動の見える化』

○ 花束のことばについて

・花束のことば画用紙に書いて各クラスで掲示（写真①）したり全クラスの花束のことば（写真②）を校内掲示したりすることで意識して学校生活を過ごす児童が増えた。また、企画委員会の児童が、各クラスの花束のことばを昼の放送で流したり、定期的に「心のブレーキふり返りカード」や帰りの会などで行動をふり返る場を持たせたりすることで児童に望ましい行動ができるように意識づけることができてきている。しかし、まだ、時々花束のことばの反対の意味を持つことばを使用する児童が数名見られるので、道徳や日々の学校生活においてことばのつかい方を粘り強く指導している。



(写真①)



(写真②)

○ あいさつ運動について

・あいさつリーダーを決めたり、あいさつをよびかけるポスターを作成（写真③）したりして意欲的にあいさつができるようになってきている。また、活動の様子や反省を掲示（写真④）することで次の活動への意欲づけをしている。しかし、あいさつ運動の時に遅刻をしてきたり、恥ずかしくて大きな声が出せなかったりする児童が、高学年を中心に数名いるので、「あいさつ」の意味も含め道徳の時間や学校生活において、随時指導もしている。



(写真③)



(写真④)

取組の成果（効果）『心にブレーキをかける』

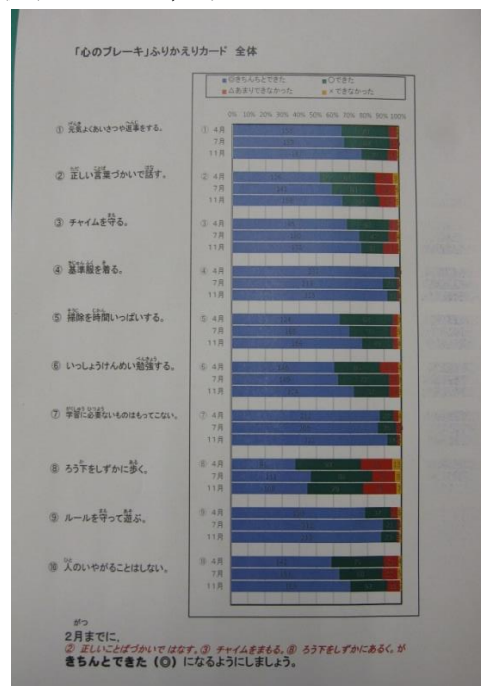
・ 1年間に4回、学校生活についてのふり返り「心のブレーキふり返りカード」（10項目）を実施し、クラスごとや学校全体の集計を掲示し、生活に生かせるようにすることで、「きちんとできた」と回答する児童が増加している。また、今年度は、地域の方や、来校者の方から、「児童がよくあいさつをしてくれる。」という声が学校に多く寄せられている。

○ 花束のこぼれについて

・ 「人の嫌がることをしない。」という項目では、「きちんとできた。」と回答した児童が4月59%→11月70%で11%向上した。

○ あいさつ運動について

・ 「元気よくあいさつをする。」という項目では、「きちんとできた。」と回答した児童が4月65%→11月77%で12%向上した。



今後の展開『達成率90%』

・ 上記の項目が「きちんとできた。」といえる児童が、90%を上回るように取組をすすめていく。

他校へのアドバイス『意識付け』

・ 児童を意欲的に活動させるには、計画、実行、ふり返りを意識づけることが大切だと感じている。また、日々の生活では、自分にも「心」があるように、他人にも「心」があるということを児童に伝えていくことや、「自分がされて嫌なことは人にしない。」「自分がされてうれしいことを人にしていこう。」という意識付けを図ることが望ましい人間関係の向上につながると考えている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立上安小学校	校長氏名	山本 伸生	生徒指導主事氏名	朝日山 元
取組事例名		『いじめのない学級にする取組』			
取組のねらい		『支持的風土づくり』			
各学級で、いじめ防止のための取組を1ヶ月間行い、学級に支持的風土を作る。					
取組の具体的内容		『具体的なクラスの取組』			
<p>①代表委員会で計画委員会が、趣旨や内容を提案する。</p> <p>②各学級で取り組む。</p> <p>例)「ふわふわ言葉」を増やすための取組、「ちくちく言葉」を使わない、グループ遊び、クラス遊び、帰りの会での「いいところ見つけ」など</p> <p>③帰りの会や学活などで振り返る。</p> <p>④担任が観察する。(子どもの様子、学級全体の様子)</p> <p>⑤9月の終わりに各学級で取り組んだ内容と、子どもや学級の様子をまとめて計画委員に提出する。</p> <p>⑥計画委員が、給食放送で取組や結果を知らせる。</p>					
取組の課題・創意工夫		『活動をすることで変える』			
<p>1年1組 帰りの会で友達の「いいところ見つけ」をして、「いいところ見つけの木」にシールを貼り、学活の時間にクラス遊びをした。</p> <p>1年2組 「ふわふわ言葉」を使って、「虹色の木」をシールでいっぱいにしようという取組をした。</p> <p>2年生 学年全体で、いじめのない学級にするためにはどうしたらよいかを話し合い、決めたことを教室に掲示した。</p> <p>3年1組 「全員遊び」に取り組んだ。</p> <p>3年2組 帰りの会の「いいところ見つけ」のコーナーで、9月中に全員が「いいところ見つけ」で発表できるように取り組んだ。</p> <p>4年1組 一日の振り返りをするときに、友達の良いところを一人一つは見つけて言えるようにすることに取り組んだ。</p> <p>4年2組 週3回「全員遊び」をする事に取り組んだ。</p> <p>5年1組 「全員遊び」と「いいところ見つけ」に取り組んだ。</p> <p>5年2組 困っている人を助ける事と、「いいところ見つけ」をする事にに取り組んだ。</p> <p>6年1組 優しい言葉を使うことと、1ヶ月に1回「お楽しみ会」をする事に取り組んだ。</p> <p>6年2組 「いいところ見つけ」と「全員遊び」に取り組んだ。</p>					
取組の成果(効果)		『信頼関係』			
<p>【児童の振り返り】</p> <p>・「いいところ見つけ」をしたことで、いいことをする人が増えた。例えば、帰りの支度の時に、水筒を進んで配ったり、掃除の時に机が倒れたら、進んで手伝ったりする人が増えた。また、クラス遊びをすることで、クラスの雰囲気良くなり、友達同士がますます仲良くなってきた。</p> <p>・「ふわふわ言葉」が増えることで、クラスの雰囲気が良くなった。しかし、反省として、最後の頃</p>					

は、「ふわふわ言葉」を使うことが目的なのに、シールを集めることが目的になっていた。これからも、他の人からしてもらったら嬉しいことをしていきたい。

・ 掲示した言葉を見たり、帰りの会で振り返りをしたりすることで、一人一人がいじめをなくすように気を付けて生活できた。これからも、続けていきたい。

・ 全員で楽しく遊ぶことで、仲良くなることができた。これからも、全員遊びを続けて行い、もっと仲良くなりたい。

・ クラスに笑顔が増えて、みんながさらに仲良くなった。

・ 前よりも、友達の良さを見つけることが出来る人が増えた。これからも、小さな事でいいから、しっかり見つけていきたい。

・ クラスみんなの「きずな」が深まり、いじめが少なくなった。

・ クラス全体がまとまり、一人ひとりの良いところを改めて理解することができた。

・ 友達のことを考えて行動出来るようになり、自分の知らないことを友達に教えてもらうことが増えた。

・ 優しい言葉を使うことにより、クラスの雰囲気が良くなってきた。また、月に1回「お楽しみ会」を計画することで、みんなで協力したり、友達とのきずなを深めることができた。

・ どんな場面でも、男女関係なく発表できるようになった。

今 後 の 展 開 『継続的に』

・ 今回の経験を生かして、今後も、各クラスで全員遊びや「いいところ見つけ」を継続的に行い、いじめのない学級（学校）をつくる。

他校へのアドバイス 『子どもの声から』

・ 児童会から提案する形をとること。

・ 最初は、1ヶ月間限定で行うこと。

・ 1ヶ月後に、各クラスの学級会で総括すること。

・ 給食放送で、各クラスの取組を紹介すること。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立本通小学校	校長氏名	吉貞 至誠	生徒指導主事氏名	下河原 しのぶ
-----	----------	------	-------	----------	---------

取組事例名 『なかよしサポーターを生かした全校いじめ撲滅運動』

取組のねらい『キーワード：児童主体のいじめ撲滅運動』

いじめ撲滅の意義を理解し、いじめ撲滅のためにできることを話し合ったり、取組内容を決めて活動したりしていく中で、自分達の学校は自分達の手でよくしていこうとする自主的、実践的な態度を育てる。

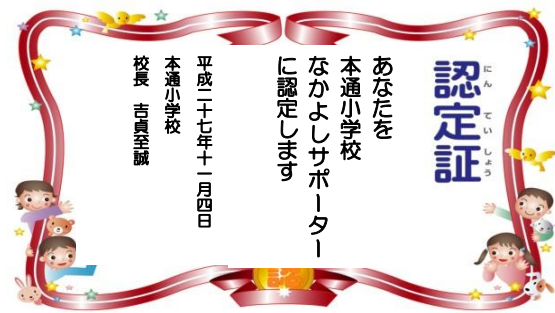
取組の具体的内容『キーワード：各学級の「なかよしサポーター」』

1 生活朝会

- ① 今月の生活目標「あったか言葉を広げよう」の紹介
- ② 「いじめ撲滅キャンペーン」についての説明
- ③ 「なかよしサポーター」の募集

2 各学級の「なかよしサポーター」認定講習（校長室）

- ① いじめの構造や「なかよしサポーター」に期待することについての話をする。
- ② 講習後に認定証を渡す。



〈なかよしサポーター認定証〉

3 「なかよしサポーター」の活動

- ① 活動内容についての話し合い及び生徒指導主事によるアドバイス
- ② 活動 あったか言葉を率先して使う
 あったか言葉を使っている人を見つけて褒める
 ちくちく言葉を使っている人を注意する
 帰りの会で学級全体で振り返り点検する
 帰りの会の後、今日の活動内容と状況を職員室に報告し、教員からアドバイスを受ける等
- ③ 教職員は、活動を見守り、報告時には適切にアドバイスし、目に見える評価（認定証にシールを貼る、職員室前の風船の絵に各学級での達成度に応じて色を塗る等）を行う。

4 生活朝会で取組の発表

取組全体の振り返りを各学級代表として、全校の前で発表させる。

5 留意点

- ① 学級担任は「なかよしサポーター」への肯定的評価と活動の価値付けをしっかりと行い、いじめ撲滅への意欲を広げられるようにする。
- ② 「なかよしサポーター」以外にも、委員会等を活用し、いじめ撲滅等のよりよい学校作りにつながる活動を奨励し、積極的に全校の前で取り上げていく。

取組の課題・創意工夫『キーワード：児童と共にPDCAサイクル』

ア 「いじめ撲滅キャンペーン」に合わせて、生活目標を「あったか言葉を広げよう」とすることで、「なかよしサポーター」の活動を、具体的に考えやすくした。（「あったか言葉を増やすこと」「ちくちく言葉を減らすこと」等）

イ 「目標→具体的な活動→日々の振り返り→報告→改善→取組の振り返り→発表→今後の目標→・・・」という PDCA サイクルを児童と共にまわすようにした。

ウ 計画の段階で、どのようなことが仕組めそうかもっと細かく吟味しておくことで、「なかよしサポーター」以外の児童にも主体的な活動の場を広げられる可能性がある。

取組の成果（効果）『キーワード：「児童の自主性」「組織的な生徒指導」』

ア 全校で取り組むことで、「あったか言葉を使おう」という気運が高まった。

イ 生活朝会の振り返りの場で「なかよしサポーター」が代表として発表したことで、自分達を感じた率直な感想も交えながら、各学級の振り返りを伝えることができた。そのことで、自分達の手で学校を良くしていこうとする意欲が全校にも広がり、「いじめ撲滅キャンペーン」が終わった後も、悩みを出せる機会として運営委員会が「あったかボックス」を設置する等の自主的な活動が続いた。

ウ 教職員の情報共有に係る意識の高まりも見られた。放課後の「なかよしサポーター」の報告を受けて、各学級のその日の様子や気になる事案について把握した生徒指導主事や管理職等が担任に声をかけることで、児童理解を深めたり、教職員同士で生徒指導上の気になる話が気軽にできるようになったりした。



〈「いじめ0」をよびかける子ども達〉

〈「あったかボックス」の紹介〉

今後の展開『キーワード：問題行動の未然防止のために児童主体の取組で積極的生徒指導を』

ア 「なかよしサポーター」の経験者と今後の希望者を交えた会議の場を設定し、児童が感じている学校の課題を吸い上げたり、学校をより良くするために何ができるかを考えさせたりする。

イ 学校の課題を教職員が把握していることはもちろん、いかに児童から引き出して問題解決に向けて児童自身がやり遂げた取組にしていくかが重要であるとする。問題行動の未然防止のためにも、児童主体になる取組を発表する場や仕掛けを考える必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード：情報交換を自校の取組に生かす』

今回の取組は、週に1回の中学校区生徒指導連絡会の情報交換の中で得たアイデアを生かして、自校で取り組んだものである。また、中学校区の小中一貫教育の中で共通して取り組んでいる「和（なごみ）キーワード」である「思いやり」を活用することで、自校だけでなく、中学校区全体で「思いやり」の育成に効果があった。中学校区で情報交換を活発に行い、成果が期待できると思うことは、自校でアレンジして積極的に取り入れていくことが大事だと感じた。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立平良小学校	校長氏名	林 真由美	生徒指導主事氏名	外輪 親憲
取組事例名		『見つけた みんなのいいところ ほめりんご』（第 1 学年）			
取組のねらい『キーワード 相互理解』					
<p>友だちの良いところを見付けさせ、意識させることで進んでよいことや友達の為になることをする児童を育てる。</p>					
取組の具体的内容『キーワード 視覚化』					
<p>この取組では、まず帰りの会で日直がその日に見つけた友達の良かったところをみんなに伝える。帰りの会の後に、日直が発表したことを教師がりんごの形をしたメモ用紙に書き、教室に掲示している木の形をした模造紙に 1 枚ずつ貼る。</p> <p>1 年を通して、りんごの木が「よいことを書いたりんご」でいっぱいになるように頑張ろうと声かけをしてきた。</p>					
取組の課題・創意工夫『キーワード 模範』					
<p>この取組の課題としては、同じ子供の名前が何度も出てくることである。どの子供も自分からよいと思うことを進んで行えるようにしていきたい。また、良い行為を見ていても、どのように表現すればよいか分からない子供もいる。日ごろから教師が「〇〇くんの今の行動は良かったね。」と良い行為を価値づけしたり、事例を挙げたりすることが大切である。</p>					
取組の成果（効果）『キーワード 認め合う』					
<p>この取組を行うことで教師は、どんな行為が友達や他人の為になるかを子供たちに身近な例を挙げながら話をすることができた。それは、子供たちも日頃目にする姿なので理解しやすい様子であった。</p> <p>また、子供たちからも「先生、〇〇さんが本の整理をしていたよ。」などと友達の姿を意識し、認めている様子が見られた。その子供は友だちの良いところから学ぶことができていた。</p> <p>また、あまり目立たない子供のよさをみんなに伝えることで、本人の自信にもつながっている様子が見られた。</p> <p>りんごメモが沢山貼られた掲示物を見ることで、何がみんなのためになることなのかを理解し、自らが進んでよい行為ができるようになる。さらには個人及び学級がどのように成長したかを振り返ることができる。</p> <p>児童が発表したりんごメモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A ちゃんが、おちていたぞうきをかけなおしてくれました。ありがとう。 ・ B さんと C さんがトイレのスリッパをそろえてほめられました。 ・ そうじでピカピカにしようの 2 ばんをとりました。 ・ D ちゃん、きゅうしょくのかたづけをてつだってくれてありがとう。 ・ おんがくにいくときにきちんとじゅんぴができました。 ・ たしぎんのけいさんカード、ぜんいんごうかくしました。 ・ ようちえんとほいくえんのせんせいがしせいがいいとほめてくれました。 ・ きゅうしょくをみんなでのこさずたべました。ごちそうさま。 					



今後の展開『キーワード 多様化』

事例がパターン化しているのでどんなことが他人や友達の為になる行為なのか教師から色々な良い事例を発信することが大切である。また、なぜそのことが良いのかも話していきたい。そして、子供たちが今までと違った視点、あるいは新しい事例を発見した際には、さらに評価をしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 継続』

どのように教室に掲示するか、教師がどのように日々の生活の中で声掛けをし取り上げるかによって子供たちが取り組む意欲と態度が違っていると感じる。そのため、継続的に行わせるためには、教師自らが子供たちの模範となるようなことを行い、認め合っていくことが大切だと考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立田野浦小学校	校長氏名	杉原 禎也	生徒指導主事氏名	梶本 明伸
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『レベル5のあいさつ』

取組のねらい『キーワード あいさつ三原一』

具体的なあいさつのしかたについて示し、評価することで、自分からきちんとしたあいさつができる児童を育成する。

取組の具体的内容『キーワード みんなで取り組む』

- ①あいさつのモデルを「レベル5のあいさつ」として具体的に児童に示し、教室や校内にも掲示する。
- ②1学期末の児童の姿をイメージし、PDCA サイクルにもとづいて目標を立て、計画、評価、取組の見直しを行う。
- ③毎月、全校児童の中から教員の投票で「あいさつ名人」を選出し、表彰する。
 - ・「あいさつ名人」になった児童は、認定リボンを名札に付け、校内にも名前と顔写真を掲示する。
- ④「あいさつ名人」になった児童の有志が朝、正門であいさつ運動を行う。

レベル5のあいさつで めざせ 三原一

レベル
アップ

レベル	あいさつの仕方
5	立ちどまって おじぎして あいての目を見て 大きな声で あいてより先に
4	おじぎして あいての目を見て 大きな声で あいてより先に
3	あいての目を見て 大きな声で あいてより先に
2	大きな声で あいてより先に
1	あいてより先に

平成 27 年 4 月 28 日

「レベル5のあいさつ」のPDCAサイクル

1 ゴールイメージ（7月の児童の姿）

○ レベル5のあいさつができる児童の割合

全校児童 80 %以上	1年生 90 %以上	2年生 90 %以上	3年生 80 %以上	4年生 80 %以上	5年生 70 %以上	6年生 70 %以上
-------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

2 長期・短期のC→A

段階	長期のC→A (3カ月)	短期のC→A (2週間)	C (アンケート調査)	A (具体的手立て)
1	4月の取組みのC→A	4月30日(木)	4月の取組みを振り返り目標値との差を確認する。	目標値との差を埋めるための具体的な手立てを考え実践する。
2	4月末～5月運動会終了後	5月22日(金)	前段階との差を分析する。	
3	5月運動会終了後～7月始	6月5日(金) 6月19日(金) 7月3日(金)		

3 C

- ① 全校児童にアンケート調査を実施
- ② 各学級・学年で結果を集計し、生徒指導主事に結果を報告
- ③ 生徒指導主事を中心に「豊かな心部」で結果を分析

4 A

- ① 生徒指導主事を中心に「豊かな心部」で目標値との差を埋めるための具体的な手立てを考え、取組の計画を立案する。
- ② 生徒指導主事からの指示を受け、各学級・学年で目標達成に向けて具体的な取組みを進める。

取組の課題・創意工夫『キーワード みんなで取り組む』

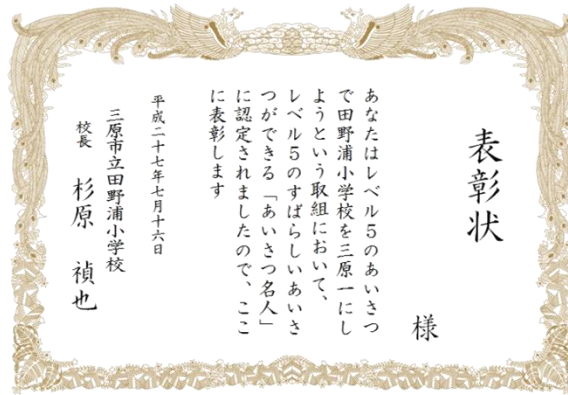
- 「レベル5のあいさつ」であいさつの具体的なモデルを示すことで、児童はわかりやすく、教員は指導しやすい。
- 「あいさつ名人」の取組を毎月行うことで定期的に児童に意欲づけと意識づけができる。
- 教員全員が毎月「あいさつ名人」の投票することで、教職員の意識づけにもなる。
- 学年、学級によって取組に温度差がある。
- 高学年になるほど意欲的にあいさつをしようとする児童が少なくなっている。

取組の成果（効果）『キーワード 評価とモデル化』

- 「あいさつ名人」を目指してあいさつを頑張っている児童が増えている（特に低学年）。
- あいさつについて、アンケートで肯定的な評価をしている児童が84%である。
- 保護者や地域の民生委員さん、来校者にあいさつがよくなったと言われることが増えている。



あいさつ名人の掲示



あいさつ名人の表彰状



あいさつ名人認定リボン

今後の展開『キーワード 意欲を持たせる』

- ・取組が次第にマンネリ化してくるので、「あいさつ名人」が正門であいさつ運動をする以外にも、「あいさつ名人」がよいモデルになり活躍するような場を考えていきたい。
- ・保護者や地域の方など外部の方からの肯定的な意見を積極的に児童に返していきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 一点突破の取組』

- ・足りない部分や改善していきたい部分は多々あるが、ポイントをしばって一点突破の取組を進めていく。
- ・児童も教員もみんなで目標に向けて取り組んでいけるようにする。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立沼田東小学校	校長氏名	新庄 直子	生徒指導主事氏名	前花 真吾
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『スモールステップの目標づくり』

取組のねらい 『別室登校から、所属学級参加へ』

別室に登校できるようにし、次に落ち着いた学校生活が送れるようにし、さらに所属学級への参加授業を増やす。目の前の行事で学級に参加できるよう一つ一つ課題を克服していく。

取組の具体的内容 『一つの活動に全力参加』

別室に登校できるようにし、次に落ち着いた学校生活が送れるようにし、さらに所属学級への参加授業を増やす。目の前の活動で所属学級に参加できるよう一つ一つ課題を克服していく。(遠足→運動会→修学旅行→音楽発表会→持久走大会→卒業式) 一つの活動に全力参加、その繰り返しを行う。

(○遠足へ参加できた。→○運動会の組体操の練習に徐々に参加した。→○運動会へ参加できた。→○修学旅行の事前の話し合いに参加できた。→○修学旅行へ参加できた。→○音楽発表会の練習に参加できた。→○音楽発表会へ参加できた。→○持久走大会の練習に参加できた。→○持久走大会で完走することができた。)

一つの成功体験が次の活動意欲へとつながるよう取り組んできた。

運動会



音楽発表会



持久走大会



取組の課題・創意工夫『多くの教師の声掛けと専門機関との連携で』

一つ一つの活動でできるだけ多くの教師の声掛けをしていく。(タイミングよく。)

(〇励まし「よし、やってみよう。行こう。参加しよう。がんばれ。できるよ。さあ、次は、これだ。」)

〇賞賛、あたりまえのことを認める「すごい。良かったよ。良くやったー。頑張ったね。良くできた。よく来ました。できたね。良く聞いていました。書いたね。言えたね。)

専門機関との連携を継続し、教職員の話し合いを通してベクトルをそろえ、一つ一つの活動へ6年A君、B君、C君が参加できるよう取り組んでいった。

取組の成果(効果)『徐々に落ち着きを取り戻す』

一つ一つの活動での小さな成功体験を積み重ね、最終的に、荒れた行動から落ち着いた行動への変化を遂げさせることができた。

今後の展開『卒業式に向けて』

さらに落ち着いたあたり前の行動・活動ができるよう専門機関と連携し、教職員の話し合いを基にした取組を継続していく。最終目標は卒業式参加である。

他校へのアドバイス『キーワードできることからこつこつと』

6年3名が落ち着きを取り戻していったのは、やはり、教職員集団が協力し、ベクトルを常に微調整しながら、気長にあせらず、できることからこつこつと取り組んでいった為だと思われます。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立因北小学校	校長氏名	早間 貴之	生徒指導主事氏名	脇本 賢一
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『そうじのプロ』

取組のねらい『キーワード 達成感』

- ・黙って掃除をすることの意義を考えさせ、一生懸命掃除をしようとする態度を育てる。
- ・きれいになった喜びや達成感、集団としての協調や連帯を経験させる。

取組の具体的内容『キーワード 評価』

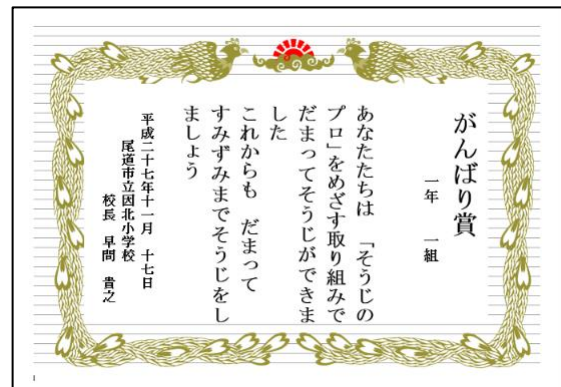
- ・担任は学級が担当する掃除場所を見回り、全員が黙って掃除しているグループに「そうじがんばりカード」を渡し、がんばり一覧表に貼らせる。また、児童の掃除の様子をよりの確に把握するために、「そうじがんばりカード」にがんばり具合でポイントを変えた（2点・1点）。
- ・学校長と教頭も評価をして回った（ポイントは3点とした）。
- ・黙って掃除をしているグループの様子を学級で紹介し、学級全体の意欲を高める。
- ・掃除後、相互評価で掃除の反省を行い、次の日につなげる。
- ・各学級から「そうじのプロ」を選出し、掃除のプロを見習わせる。



取組の課題・創意工夫『キーワード 意欲』

創意工夫

- ・がんばり具合によってポイントを変えることで、児童の意欲を高めることに繋がった。
- ・期間終了後、全員が掃除しているグループをそれぞれの学級で表彰した。また、全校朝会のときに、各学級から選出された「そうじのプロ」を紹介・表彰し、右図のような認定証を渡した。グループと個人の両方を表彰することで、児童の意欲を高めることに繋がった。



取組の課題

- ・「そうじのプロ」の取組以降、プロに認定された児童を模範とする場が不足していること。
- ・「黙ってそうじをする」ことを続けられるようにしたい。手立ての一つとして、掃除時間中に、職員がこまめに声をかけたり指導したりする。
- ・できていると感じている児童の自己肯定感を高めるとともに、できていないと感じている児童への指導を一層充実させること。

取組の成果（効果）『キーワード 意識の向上』

- ・取組前よりも、黙って掃除をすることができる児童が増えてきた。
- ・職員への毎月のアンケート（児童は「無言掃除をしよう」ができていないか）では、肯定的評価が4月の50%から、12月は74%へと向上した。
- ・児童アンケート（そうじをだまってしている）では、肯定的評価が1学期末は78.4%、2学期末は75.6%と推移している。取組を通して、自分たちの掃除は、まだレベルアップができると思う児童が増えてきているためだと考えられる。

今後の展開『キーワード 継続・応用』

- ・全校朝会や各学級で、掃除の仕方について肯定的に評価したり、「そうじのプロ」に認定された児童が意識をもつことができるような声かけをしたりする。
- ・掃除時間中に、職員がこまめに見回って指導を加えるようにする。
- ・来年度以降は、1学期の早いうちに行うことや各学期に1回行うなどの検討をする。
- ・「あいさつ名人」など、他の取組に応用して生かすことを考える。

他校へのアドバイス『キーワード 継続・応用』

「そうじのプロ」の取組は、児童の意欲を高めるためには非常に有効である。期間中は、一言もしゃべらず、全児童が静かに丁寧に取り組むことができている。一方で、取組の期間以降に児童の意欲を維持させることには課題がある。児童に対してこまめに声かけ・指導をすることで、意欲の維持を図ることができるので、各担任を中心として全職員で取り組めば効果は大きいものであると考える。

また、今年度、「そうじのプロ」を応用して本校で取り組んだ「あいさつ名人」も効果が大きかった。やり方は「そうじのプロ」と同じようにして取り組んだ。取組の結果、児童が廊下等ですれ違う際には、あいさつができるようになってきた。「よい態度をほめる」ことで、児童の意欲の高まりを継続できていると考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校長氏名	大原 俊哉	生徒指導主事氏名	丸山 信宏
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『あたたかい言葉がけ』 学級活動（２）望ましい人間関係の形成

取組のねらい『キーワード 相手の立場を考える』

なぜ相手が嫌がることを言うてしまうのか原因を探り、それに対する解決策を話し合うことを通して、相手の立場を考えた言葉遣いについて考えることができる。

取組の具体的内容『キーワード 自己決定』

・事前アンケート

「友達からうれしい言葉を言われたことがあるか」「友達から嫌な言葉を言われたことがあるか」を事前に調査する。

・学級活動の時間での授業 『あたたかい言葉がけ』

つかむ

事前アンケートの結果から、友達から言われた「うれしい言葉」や「嫌な言葉」にはどんなものがあるかを知る。

さぐる

どうして嫌な言葉を言うてしまうのか原因を考える。

見付ける

みんなで話し合い、相手に嫌な気持ちをさせないためにはどんな言葉がけをするとよいか考える。

決める

自分の課題に合った「努力すべきこと」を決める。

・事後指導

1週間毎日、自己目標をふり返り、がんばりカードに記入する。



取組の課題・創意工夫『キーワード 指導内容の絞り込み』

- ・教師主導で引っ張る展開となったため、子ども達自身に問題意識を持たせることが不十分だった。事前アンケートの結果を提示し、子ども達の実態を知らせ、本時の学習に入ったが、子ども達が「自分達の実態を知ってどう思うか」を考えさせることが不十分だった。
- ・問いが抽象的になってしまった。
「なぜ嫌な言葉を言うてしまうのか」「友達に嫌な思いをさせないためには、どんな言葉がけをしたらよいだろうか？」などの問いに対し、子ども達は何を考えればよいかがつかめきれていなかった。

取組の成果（効果）『キーワード 見える化』

- ・具体的にどんな言葉がけをするかを決めさせたことで、子ども達がうれしい言葉がけを実行することができた。
「1日に3回は友達に『すごいね』と言う」「友達が何かできた時に『よかったね』と言う」
「1日に1回は友達のすごいところをほめてあげる」
- ・事後の振り返りを行ったことで、自分の目標を意識しながら生活することができた。
「今日は5回『すごいね』と言えた」「〇〇さんの絵が上手だったからほめることができた」

今後の展開『キーワード 主体性, 具体性』

- ・問題意識を子ども達から引き出す。
事前アンケートから自分達の実態を知ってどう思うかを問いかけ、何が問題なのかを考えさせる。そして、その課題を解決するためにどうすればよいかを考えさせる。
- ・あたたかい言葉がけをするための具体的な場面を設定してトレーニングを行う。



他校へのアドバイス『キーワード 自治能力の育成』

今回の授業は教師主導になってしまった。子ども達の中から「自分達の学級を何とかしよう」という気持ちを引き出すことができれば、学んだことがより自分のものになると思う。



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立五日市中学校	校長氏名	岩井 正徳	生徒指導主事氏名	角舎 宏治
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『コミュニケーションワークショップ』

取組のねらい『キーワード 人との関わり方』

4月中旬に、入学した新1年生を対象に体育館で様々なレクリエーションを通して、人間関係のトラブル防止の取組の一環として、「コミュニケーションワークショップ」を行う。明るく、活発に、ルールを守って様々なレクリエーションを行うことで、新しい友人関係、仲間との上手な関わり方を構築していく。



演台の方が「劇団あしぶえ」の方

取組の具体的内容『キーワード 交流』

「劇団あしぶえ」の方に来校していただき、劇団員主導で行う。体育館で3クラスずつ計3回（9クラス）行い、その中で6～7パターンのレクリエーションを行う。

事前に、身体的障害の有無、発達障害の有無について、分かっている範囲で伝え、可能なレクリエーションを準備していただいている。そのため、車椅子の生徒も楽しく参加している。



取組の課題・創意工夫『行動観察』

教員は、ワークショップの様子を観察しながら、小学校からの情報と照らし合わせ、生徒の性格、関わり合いの能力、行動など生徒の特性をしっかりと確認している。また、ただのレクリエーションにならないようにするため、ルールの存在を意識させている（規範意識を育む）。規律のある、しかも楽しいワークショップになるように、担任も学級の生徒と一緒に参加している。副担任は、生徒の行動を観察しながら、適切なサポートをしている。

仲間と関わるのが難しい生徒がおり、予想していなかった生徒に対応しなければいけないケースがあり、毎年課題となっている。この「コミュニケーションワークショップ」で、知らなかった生徒の特性を把握でき、生徒の行動観察としては、時期的にも大変貴重な取組となっている。情報が不十分な時期であるので、当日の生徒の動きを、担任、副担任でしっかり見取る必要がある。実際、毎年仲間と関わるのが特に難しい生徒が数名いるため、教員によるサポートが必要となるケースが多い。



* 足の不自由な生徒は、椅子を利用している（左上女子生徒）。その両横は担任とアシスタント。右上ではスクールカウンセラーと生徒指導主事が観察しながら話をしている。

取組の成果（効果）『キーワード 良好な人間関係のスタートとして』

仲間と一緒に活動する楽しさについての感想を述べさせるなど、振り返りをしっかりさせ、日頃の生活に必要なコミュニケーションは、どのようにしていくのが理想なのかを考えさせる。生徒は、楽しく安心できる学級をどのようにして作っていくのか意識するようになる。この「コミュニケーションワークショップ」のねらいをしっかりと理解させて実施することで、取組後、良質な交流が活発化するようになる。

4月、5月は一般的にいじめが心配な時期である。いじめ防止の観点においても有効であると思われる。



今後の展開『キーワード 野外活動、学級活動（班活動）、道徳へつなげる』

入学前の小中連携で、小学校との情報連携を進めてはいるが、結果的に生徒の実態がわからないケースが毎年ある。「コミュニケーションワークショップ」の取組では、生徒の気になる言動を新たに発見する事が実際多い。実施後すぐに、小学校との情報交換を行ったり、6月初旬に、小中連携会議（情報交換会）を行ったり、保護者連携を進めている。学年内で、こうした情報をしっかりと共有し、適切な対応をしている。

良好な人間関係を作るために必要なスキルを身につけさせ、生徒の考え方を育てていく。今後の取組としては、どのような言葉かけが良いかを考えさせたり、アンガーマネジメントの取組を行い、怒りの感情をコントロールし、怒りの管理の方法を身に付けさせたりするとともに、道徳の授業で、心や考え方を育てたいと考えている。その上で、今後の学級活動や班活動、野外活動への取り組みにつなげて行きたい。

他校へのアドバイス『キーワード 継続性』

「コミュニケーションワークショップ」を終えると、学級内での人間関係がより深まり、新しい仲間と協力して今後の活動を行う雰囲気になる。人間関係のトラブルが始まる時期であるため、良好な人間関係を構築するためのスキルを、様々な活動を通して身に付けさせる必要がある。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立甲田中学校	校長氏名	宮本 直彦	生徒指導主事氏名	新谷 竜治
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『全校での取組が自己肯定感の向上を育むバースデーカードの取組』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感』

本校の生徒は、平成 26 年度「基礎・基本」定着状況調査（現第 3 学年）での生活と学習に関する調査項目において、自己実現力・自己効力感、「自分にはよいところがあります。」の問いには、肯定的回答が 59.5%、「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。」の問いには、肯定的回答が 56.8%であった。このことから、半数の生徒は「自分のよさを見いだしておらず、他者から十分に認められていない。」と感じていると分析した。また、コミュニケーション能力の不足により、日頃から生徒同士の小さなトラブルも多いことから、根底にある自己存在感や自己肯定感を高めることをねらいとした。

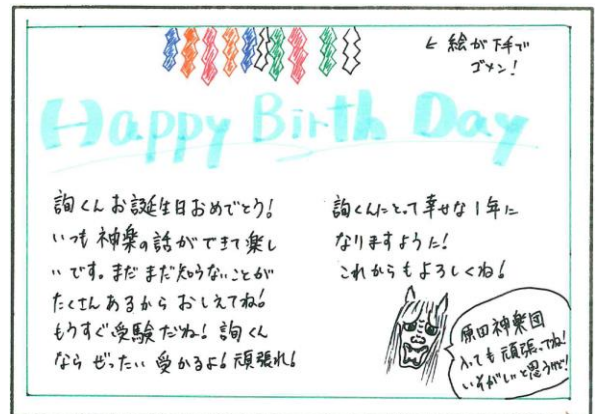
期待できる効果は、①自分自身のことを大切に思える、②友だちの優しさを感じることができる、③日頃から友達のことを大切に作る等である。

取組の具体的内容『キーワード 全校 バースデーカード 良さを見つける』

本取組は、昨年度から 2 年目の取組となる。取組の目的は、①誕生日をみんなで祝うこと、②お互いのよい点を見つけ伝えること、③日常的な場においても書く力を伸ばすことである。

まずは、バースデーカードに取り組み意義、生徒の意欲を喚起するために、4 月下旬に生徒指導主事による全校道徳において、思いやり「価値項目 2（2）」の道徳の授業を実施した。構成的グループエンカウンターを取り入れて、思いやる心を育むとともに、バースデーカードに込める思いの価値付けを行う。

バースデーカードは、A6 サイズの厚紙で主に特別活動の時間で作成する。一人一枚、誕生日を迎える生徒に



対して、学級内の生徒が祝福のメッセージを記入する。最初の特別活動の時間では、書く見本を見せ、もらってうれしいカードとは、どの様なものかを各学年で考える。戸惑う生徒も多いが、ひとことではなく、イラストを入れたり、誕生日を迎える友だちが頑張っていることを文章にして伝える工夫をする



ようになった。相手を意識して記入したカードは、各学年会で全員作成しているか確認し、生徒指導部で内容等をさらに確認したうえでラッピングする。ラッピングしたバースデーカードは、誕生日の当日、給食準備中や昼休憩を利用して、校長より祝福の言葉とともに手渡される。その際、校長より学校生活の頑張りがや誕生に関わる質問等も行われ、学校全体で生徒の誕生を祝福し存在を認め合っ

ていることを伝える。

生徒は、照れながらも笑顔で受け取り、教室に戻る途中に開封し、読む生徒も多くなる。

生徒の声には、「こんなことを見てくれてるんだ。意外です。」といったものも多く聞かれた。



取組の課題・創意工夫『キーワード 趣旨説明 振り返り 』

バースデーカードを「書いてみよう！」だけでは、生徒は何をどうすればよいか、わからない。なぜ、バースデーカードに取り組むのか、そのことによりどうなるのか、どのようなカードを仕上げれば良いかを考えさせる趣旨説明を行ったり、考えさせることが大切である。また、単に作業ではなく、全体道徳を通して取り組みへの価値づけを行うことも有効である。

また、バースデーカードを書く時間を、年間を通してどの時期の特別活動に設定するのが適切であるのか、行事や各教科・領域との関連について、生徒の様子を見取る等を行い、検討することが課題である。

さらに、生活ノート等を利用する、あるいはまとまった振り返りの時間を取って、バースデーカードを作成し、受け取ることで生徒がどのように成長をしたか、自分自身を客観的に見つめる時間を取る時間を確保することも課題である。そのことで、生徒自身が自己肯定感や自己有用感を育み、自信になることと考える。

取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感の向上 』

平成 27 年度全国学力・学習状況調査（現第 3 学年）の生徒質問紙における質問項目「自分には、よいところがあると思いますか」において、肯定的な回答は 71.4%となった。本取組だけで、肯定的な回答が向上したとは言いきれないが、生徒指導上の問題行動の減少や大きなトラブルは本年度見られない。また、給食当番での片付けの順番も押し付けることもなく、グループ内で話し合っ決めて決めるといった光景も見られるようになった。授業中でも、良い意見や行動が取り上げられた場合、自然と拍手が起こる集団になってきた。

自己存在感の向上から自己肯定感の向上へと効果が上がっているものと捉えている。

今後の展開『キーワード 集団づくり 』

本取組を継続するにあたり、学級・学年の集団づくりで、生徒同士がお互いの良さを見つけていくことが必要である。お互いに認め合うからこそ、誰かのために、集団のために行動に移す生徒を育成したい。よりよい集団づくりのために、年間指導計画等を検討し、構成的グループエンカウンターや他教科・領域との関連付けを研究する。

他校へのアドバイス『キーワード 全体で 』

取組開始時には、教職員全体でバースデーカードの意義を共有し、校長を中心とした生徒指導部や学年会の連携が大切である。生徒指導部が取組を具体化して提案し、実践することで、生徒への付けたい力を共有することで、円滑に取組が行えると考ええる。